

2019年度

---

# 教養教育科目履修の手引

---

(法学部・経済学部 夜間主コース)



OKAYAMA  
UNIVERSITY



Okayamaの「O」Universityの「U」をデザインのモチーフにしています。全体のフォルムは常に世界に向かって開かれる「知の扉」を表現しており、岡山から「知のコミュニケーション」が始まってゆく様をイメージしています。

ブルーの色調は、岡山大学の叡智を表現するとともに、「晴れの国」の青空を象徴しています。

2012年4月に、コミュニケーションシンボルとして制定されました。

# はじめに

この「履修の手引」には、岡山大学に入学された皆さんが、教養教育科目を学ぶ上で必要な情報が記載されています。

大学では、高校時代とは違い、入学した当初から自分自身で考え、選び、行動することが求められます。大学で学ぶということは、自ら学ぶ、自主的に学ぶ態度、習慣をしっかりと身につけていくことです。

例えば、授業時間割で見ると、高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められ、選択の余地はあまりなかったと思いますが、大学は、多くの授業科目の中から、一定のルールにのって自分の勉強したい科目を調べ、選び、届け出、確認するといった作業を自分の意思で責任を持って行わなければなりません。

岡山大学では、学部・学科・専攻ごとに「卒業に必要な単位数」が定められています。この条件を満たさないと、卒業ができなくなりますので、この「履修の手引」及び学部の「学生便覧」等を熟読した上に、各授業科目の内容が掲載された「授業概要（シラバス）」を活用して、納得のいく学修計画を立ててください。

## 掲 示 の 確 認

学生の皆さんへの連絡は、基本的に掲示によって行います。

夜間主コースに関する掲示は、法学部・経済学部の夜間主コース掲示板により行いますので、1日1回は確認するようにしてください。

昼間開講の教養教育科目については、一般教育棟 A 棟 1階掲示板に掲示します。

教養教育科目「履修の手引・授業時間表」や「授業概要（シラバス）」は、岡山大学のホームページ（HP）から閲覧できます。

岡山大学ホームページ (<https://www.okayama-u.ac.jp/>)

→「在学生・保護者の方」→「シラバス」

→「履修・成績等」→「教養教育履修の手引」

→「履修・成績等」→「教養教育授業時間表」

はじめに .....	1
------------	---

## 巻頭

主要なスケジュール .....	4
2019年度 教養教育科目 授業日程 .....	5

### 1. 岡山大学における教育

1-1 岡山大学の理念・目的・目標 .....	6
1-2 岡山大学における学士課程教育構築の取り組み .....	7
1-3 岡山大学の教育課程 .....	10
1-4 大学で学ぶために .....	12

### 2. 岡山大学における学び

2-1 学年暦 .....	14
2-2 学年と学期 .....	14
2-3 授業日程と授業時限 .....	14
2-4 単位の基準 .....	15
2-5 成績の評価 .....	15
2-6 特別な単位の認定 .....	18
2-6-1 入学前の既修得単位の認定	
2-6-2 放送大学の修得単位の認定	
2-6-3 外部検定試験による単位の認定	
2-6-4 留学による単位の認定	
2-6-5 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定	

### 3 教養教育の学び

3-1 岡山大学ディプロマポリシー(DP)・教養教育DP要素・コンピテンシー .....	21
3-2 導入教育科目 .....	23
3-3 知的理解科目 .....	23
3-4 実践知・感性科目 .....	24
3-5 汎用的技能と健康科目 .....	25
3-6 言語科目 .....	27
3-7 高年次教養科目 .....	29

### 4 授業の履修手続き

4-1 履修登録に必要なもの .....	30
4-2 教養教育科目授業時間表の見方 .....	30
4-3 履修登録のしかた .....	31
4-4 教養教育科目の抽選について .....	32
4-5 履修登録のルール .....	33
(1) 教養教育科目授業時間表	
(2) 全学部共通の注意事項	
(3) 各科目の履修上のルール	
①学部ガイダンス科目	
②知的理解科目, 実践知・感性科目, 汎用的技能と健康科目の内, 英語で行われる科目	
(4) 他学部が開講する専門教育科目の履修について	

<b>5 受講上の注意</b>	
5-1 教室	35
5-2 授業に関する連絡	35
5-3 教室変更	35
5-4 休講・補講	35
5-5 公欠・準公欠・その他の欠席	36
5-6 レポートの提出	37
<b>6 試験及び成績の評価</b>	
6-1 受験心得	38
6-2 不正行為	38
6-3 受験延期願（追試験）	39
6-4 成績の通知	39
6-5 成績評価に関する質問・疑問の受付について	40
<b>7 学びのサポート</b>	
7-1 教科書の購入方法	41
7-2 教科書の活用方法	41
7-3 大学内で自主的に学習したいとき	41
7-4 授業が分からない、授業について質問があるとき	42
7-5 外国語をもっと学習したいとき	42
7-6 授業評価アンケート	43

## 巻末資料

<b>2019年度 教養教育科目 開講授業科目一覧</b>	44
<b>学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて</b>	46
<b>欠席届</b>	49
<b>文学部・法学部・経済学部 教室配置図</b>	50
<b>ナンバリングコードについて</b>	51

# 主要なスケジュール

2019年度の大学の行事と入学当初の大事なスケジュールを示しています。よく確認してください。

年 月 日	学 年 暦	行 事
4月 1日(月)	学年始め	
4月 1日(月), 2日(火), 4日(木), 5日(金)		新入生オリエンテーション ※日時・場所については,【See→「入学案内」9頁】
4月 2日(火)	入学式	
4月 3日(水)		全学統一GTEC ※時間・場所は新入生オリエンテーション時に案内します。
4月 3日(水)～7日(日)		新入生健康診断 【See→「入学案内」11頁】
4月 3日(水), 4日(木), 5日(金)		新入生履修相談会 ※時間・場所は新入生オリエンテーション時に案内します。
4月 4日(木)		教養教育科目に関する履修説明会 ※時間・場所は新入生オリエンテーション時に案内します。
4月 7日(日)		英語・初修外国語クラス分け結果発表 教養教育科目(第1学期)抽選結果公開(1年次生のみ) 【Web:学外からも可】
4月 8日(月)		前期・第1学期授業開始
4月上旬～		前期, 第1・2学期, 夏季集中 履修登録【学務システム(Web登録:学内パソコン)】
5月中旬		教養教育科目抽選登録(第2学期, 夏季集中開講)【Web登録:学外からも可】
5月下旬		教養教育科目(第2学期, 夏季集中開講)抽選結果公開【Web:学外からも可】
6月上旬		《第1学期末試験》授業時間内で適宜実施
6月13日(木)		第2学期授業開始
8月上旬		《前期末試験, 第2学期末試験》授業時間内で適宜実施
8月11日(日)～9月30日(月)	夏季休業	
8月下旬～9月中旬		教養教育科目抽選登録(第3・4学期, 冬季集中・春季集中開講)【Web登録:学外からも可】
9月下旬		教養教育科目(第3・4学期, 冬季集中・春季集中開講)抽選結果公開【Web:学外からも可】
9月下旬～		後期, 第3・4学期, 冬季集中・春季集中 履修登録【学務システム(Web登録:学内パソコン)】
10月 1日(火)		後期・第3学期授業開始
11月下旬		《第3学期末試験》授業時間内で適宜実施
12月 2日(月)		第4学期授業開始
12月14日(土), 15日(日)		全学統一GTEC(2019年度入学生)
12月25日(水)～ 2020年1月4日(土)	冬季休業	
1月17日(金)		大学入試センター試験実施に伴う臨時休講
2月上旬		《後期末試験, 第4学期末試験》授業時間内で適宜実施
2月15日(土)～3月31日(火)		春季休業
2月下旬～3月中旬		教養教育科目抽選登録(次年度第1学期開講)【Web登録:学外からも可】
3月25日(水)	学位記等授与式	
3月下旬		教養教育科目(次年度第1学期開講)抽選結果公開【Web:学外からも可】
3月31日(火)	学年終了	

巻頭

1 岡山大学における教育

2 岡山大学における学び

3 教養教育の学び

4 授業の履修手続き

5 受講上の注意

6 試験及び成績の評価

7 学びのサポート

巻末資料

## 2019年度 教養教育科目授業日程計画

月	曜日							備 考	月	曜日							備 考
	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土	
4月		1	2	3	4	5	6	2日 入学式 3日 全学統一GTEC (2019年度入学生) 3~7日 新入生健康診断 4日 教養教育科目 履修説明会 (2019年度入学生) 8日 第1学期授業開始 29,30日 昭和の日、国民の休日	10月			1	2	3	4	5	1日 第3学期授業開始 1日 秋季入学者入学式 14日 体育の日 注: 16日 月曜日の授業を行う 22日 即位礼正殿の儀の行われる日
	7	8	9	10	11	12	13			6	7	8	9	10	11	12	
	14	15	16	17	18	19	20			13	14	15	16	17	18	19	
	21	22	23	24	25	26	27			20	21	22	23	24	25	26	
	28	29	30							27	28	29	30	31			
5月				1	2	3	4	1日 即位の日 2日 国民の休日 3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日 6日 振替休日	11月					1	2	3日 文化の日 2日~4日 大学祭 注: 7日 月曜日の授業を行う 23日 勤労感謝の日	
	5	6	7	8	9	10	11			3	4	5	6	7	8		9
	12	13	14	15	16	17	18			10	11	12	13	14	15		16
	19	20	21	22	23	24	25			17	18	19	20	21	22		23
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28	29		30
6月							1	13日 第2学期授業開始	12月	1	2	3	4	5	6	7	2日 第4学期授業開始 14,15日 全学統一GTEC (2019年度入学生) 25日~1月4日 冬季休業
	2	3	4	5	6	7	8			8	9	10	11	12	13	14	
	9	10	11	12	13	14	15			15	16	17	18	19	20	21	
	16	17	18	19	20	21	22			22	23	24	25	26	27	28	
	23	24	25	26	27	28	29			29	30	31					
7月		1	2	3	4	5	6	15日 海の日 注: 18日 月曜日の授業を行う	1月				1	2	3	4	1日 元日 13日 成人の日 注: 14日 金曜日の授業を行う 17日 センター試験実施に伴う臨時休講 18,19日 大学入試センター試験
	7	8	9	10	11	12	13			5	6	7	8	9	10	11	
	14	15	16	17	18	19	20			12	13	14	15	16	17	18	
	21	22	23	24	25	26	27			19	20	21	22	23	24	25	
	28	29	30	31						26	27	28	29	30	31		
8月				1	2	3	11日~9月30日 夏季休業 10,11日 オープンキャンパス 11日 山の日 12日 振替休日 14日~16日 夏季一斉休業	2月							1	11日 建国記念の日 15日~3月31日 春季休業 25,26日 一般入試(前期日程)	
	4	5	6	7	8	9			10	2	3	4	5	6	7		8
	11	12	13	14	15	16			17	9	10	11	12	13	14		15
	18	19	20	21	22	23			24	16	17	18	19	20	21		22
	25	26	27	28	29	30			31	23	24	25	26	27	28		29
9月	1	2	3	4	5	6	7	16日 敬老の日 23日 秋分の日 25日 学位記等授与式	3月	1	2	3	4	5	6	7	12日 一般入試(後期日程) 20日 春分の日 25日 学位記等授与式
	8	9	10	11	12	13	14			8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21			15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28			22	23	24	25	26	27	28	
	29	30								29	30	31					
第1学期計	8	8	8	8	8		授業週数(含試験)	第3学期計	8	8	8	8	8	授業週数(含試験)			
第2学期計	8	8	8	8	8			第4学期計	8	8	8	8	8				

7月18日を含む

10月16日及び11月7日を含む

1月14日を含む

第1学期 4月1日~6月12日

第2学期 6月13日~8月10日

第3学期 10月1日~12月1日

第4学期 12月2日~2月14日

休業日及び臨時休講を示す。

他の曜日の授業を行う日を示す。

気象警報等により休講とした場合の補講日を示す。

※補講については、土曜日を含め、授業担当教員が指定した日に行う。

※夜間主コースは第1, 第2学期を前期授業期間とし、第3, 第4学期を後期授業期間とする。

# 1. 岡山大学における教育

## 1-1 岡山大学の理念・目的・目標

### 1. 岡山大学の理念

#### “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

### 2. 岡山大学の目的

#### “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

### 3. 岡山大学の目標

#### (1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

#### (2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

#### (3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利を生かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

#### (4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

#### (5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。



# 1. 岡山大学における教育

## 1-2 岡山大学における学士課程教育構築の取り組み

### 1. 「学士課程教育構築」？「学士力」？

「学士課程教育構築」「学士力」という言葉は、岡山大学独自のものではありません。

「学士課程教育構築」については、2005年1月の文部科学省中央教育審議会による答申「我が国の高等教育の将来像」により、次のように説明されたことが原点となっています。「現在、大学は学部・学科や研究科といった組織に着目した整理がなされている。今後は、教育の充実の観点から、学部・大学院を通じて、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程(プログラム)中心の考え方に再整理していく必要があると考えられる。」これ以降、主に2008年12月「学士課程教育の構築に向けて」および2012年8月「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」の答申を通じ、日本の高等教育における「学部教育」から「学士課程教育」への転換が課題とされてきました。

「学士力」は、これらの答申の中で、学生の学修分野にかかわらず、大学が社会に送り出す卒業生に保証すべき基本的な能力として示されています。

岡山大学では、2008年の答申直後から、本学の学士課程教育構築に向けた取り組みを開始し、まず、後で述べる5つの基本的な能力を学士力と定め、学位授与の方針(ディプロマポリシー、DP)の中で、学士課程教育における人材育成の目標としました。続いて、教養教育並びに専門教育によってこの目標を達成するための方針として「教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー、CP)」, 本学の教育と受験生とのマッチングのため、岡山大学が求める人材を示す「入学者受入れの方針(アドミッションポリシー、AP)」を定め、公表しています。

本学は現在学士課程教育の実質化ならびに質の向上を目指してその方策を検討・実行しています。

### 2. 岡山大学の「学士力」

岡山大学は、ディプロマポリシーで「教養」「専門性」「情報力」「行動力」「自己実現力」の5つを学士力と定め、これを身につけた学生を卒業生として送り出すことを宣言しています。

岡山大学 5つの「学士力」(岡山大学ディプロマポリシー 2010年4月19日学長裁定 より)

#### 人間性に富む豊かな教養 【教 養】

自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

#### 目的につながる専門性 【専 門 性】

専門的学識と時代を担う技術を身につけていると共に、それらと自然・社会とのつながりを意識し、社会に貢献できる。

#### 効果的に活用できる情報力 【情 報 力】

必要に応じて自ら情報を収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できる。

#### 時代と社会をリードする行動力 【行 動 力】

グローバル化に対応した国際感覚や言語力と共に、社会生活に求められるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る共生のために、的確に行動できる。

#### 生涯に亘る自己実現力 【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って自己の成長を追求できる。

※各学部・学科でも、これを基礎とした独自の学士力を、各学部・学科のディプロマポリシーに定めています。

# 1. 岡山大学における教育

ディプロマポリシーで示す学士力を身につけられるよう、効果的に教育するためのカリキュラムポリシーを定めています。

## 岡山大学カリキュラムポリシー（2012年11月29日学長裁定 より）

岡山大学は、本学のディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養，目的につながる専門性，効果的に活用できる情報力，時代と社会をリードする行動力，生涯に亘る自己実現力）を備え，グローバル化社会に対応できる人材を育成するため，教養教育科目および専門教育科目を提供しています。教養教育科目は，全学部の学生が共通に受ける授業と位置付け，学生自身の専門に偏ることのないよう，幅広い学問領域の科目群の履修を求めるカリキュラムを設定しています。また，専門教育科目は，学生が属する学部・学科等に特有の授業内容で構成され，各学部・学科等の教育目的に則した科目群の履修を求めるカリキュラムを設定しています。これら教養教育科目ならびに専門教育科目を体系化したカリキュラムを編成し，学生に提供します。

※各学部・学科でも，これを基礎とし，各学部・学科のカリキュラムポリシーを定めています。

また，学生は，主体的に問題を発見し，解を見いだしていく能動的な学修習慣を身につけることが重要です。そのためには，①授業の予習（資料の下調べや読書，思考，学生同士のディスカッション等），②授業の受講（教員の直接指導，その中での教員と学生，学生同士の対話や意思疎通），③授業の復習（授業内容の確認や理解の深化のための探求等）を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠です。授業の受講のためには，例えば講義の場合，その授業時間の倍の時間を，予習，復習に充てることを実践してください。

### 3. ディプロマポリシーに定める学士力の達成度検証

当然，大学はこれらの学士力を備えた学生を育成するために，必要な教育課程を編成し，実施しなければならず，同時に，学生にも，学士力達成を目標として自己の学びを深化させていくことが求められます。

しかし，学生がこれらの学士力を達成しているかどうかは，修得した科目や単位数だけでは容易に検証できないことから，岡山大学では，これを可視化するためのシステムを構築し，これを，岡山大学学士課程教育構築システム（愛称 Q-cum system）と名付けました。

### 4. 学士課程教育構築システム(Q-cum system)

Q-cum systemでは，各学生が履修した科目と学士力との関連性から，学士力評価チャートが生成できます。学生は，オンライン上で，現在の学士力達成度を視覚的にとらえ，学習目標の設定に役立てることができます。

Q-cum systemは，学生にとっては自己の学士力達成度を確認するためのツールであり，それと同時に，大学にとっては，学生が，卒業までに本学が定めたディプロマポリシー上の学士力を満たすために適切なカリキュラムや教育内容を提供しているかを検証するためのツールでもあります。

岡山大学では，このシステムを活用し，持続的なカリキュラム改善のためのPDCAサイクルを稼働させ，教育の質を保証しようとしています。

Q-cum systemへのログイン方法

岡山大学HPからアクセスしてください。

「在学生・保護者の方」→「システムの利用方法」→「各システムの入り口」  
→「Q-cum system（学士課程教育構築システム）」

# 1. 岡山大学における教育

## 5. これからの取り組み

先に述べた、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーの設定、Q-cum systemによる学士力達成度の可視化等は、本学における学士課程教育構築のための取り組みの一部であり、他にも、本学の教養教育を強化する方策や授業科目の新設等も検討しています。

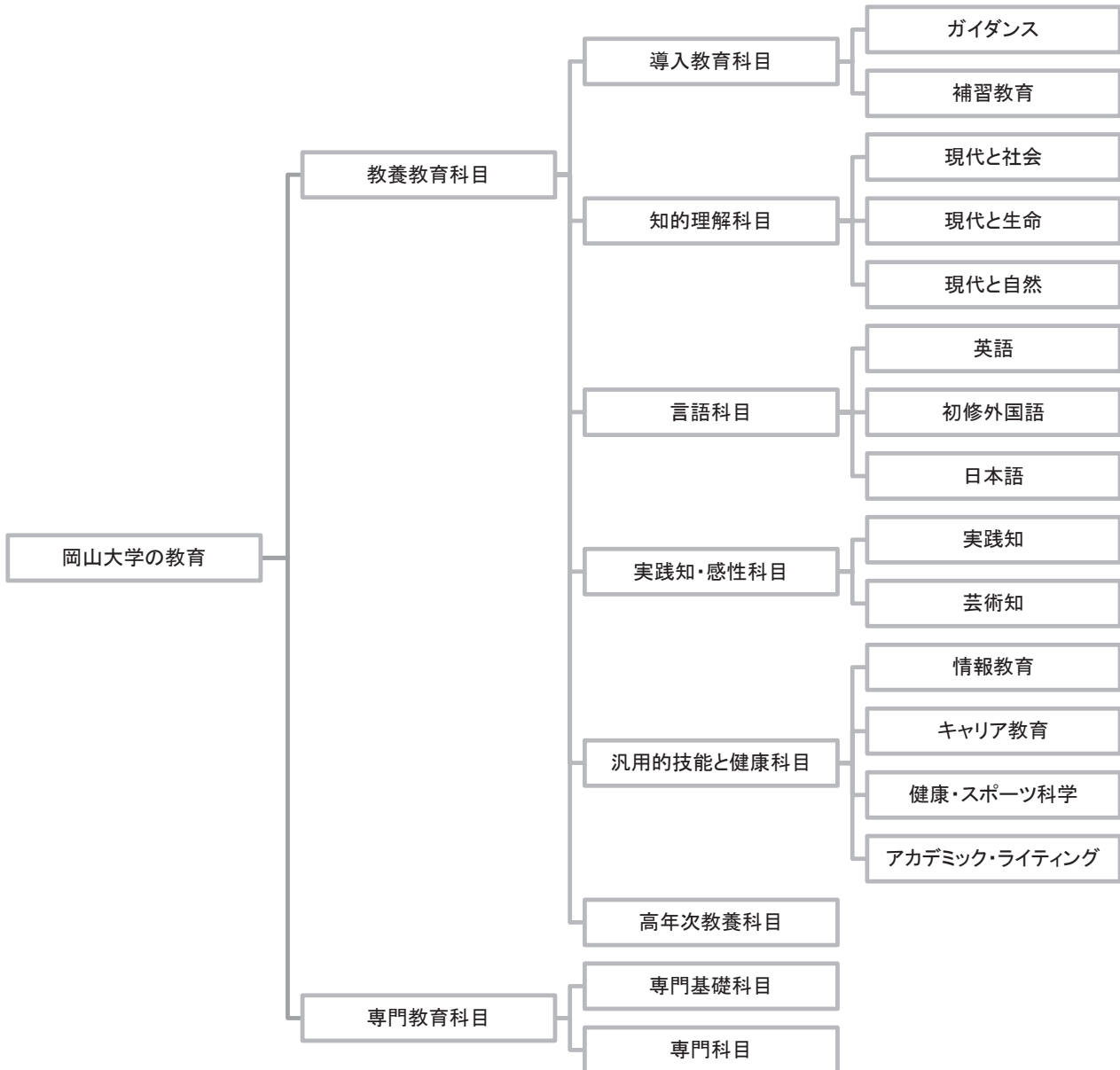
また、現在のQ-cum systemでは、正課内の科目のみによる学士力達成度を量っているわけですが、大学生活の中で得られる学びの機会、正課内にのみあるものではありません。学士力には、「自己実現力」等、学生が自主的に取り組む課外活動や社会活動を通じても育成される力があります。岡山大学では、将来的にはこのような授業科目以外の学生生活で育まれる能力についても、学士力と認めていきたいと考えています。

# 1. 岡山大学における教育

## 1-3 岡山大学の教育課程

### 1. 二つの大きなプログラムー「教養教育」と「専門教育」ー

岡山大学の教育プログラムは、所属する学部の違いを超えた共通の授業内容から成る「教養教育」と、それぞれの学部に固有の授業内容から成る「専門教育」の二つで構成されています。



巻頭

1 岡山大学における教育

2 岡山大学における学び

3 教養教育の学び

4 授業の履修手続き

5 受講上の注意

6 試験及び成績の評価

7 学びのサポート

巻末資料

# 1. 岡山大学における教育

## 2. グローバル人材育成特別コース（Gコース）

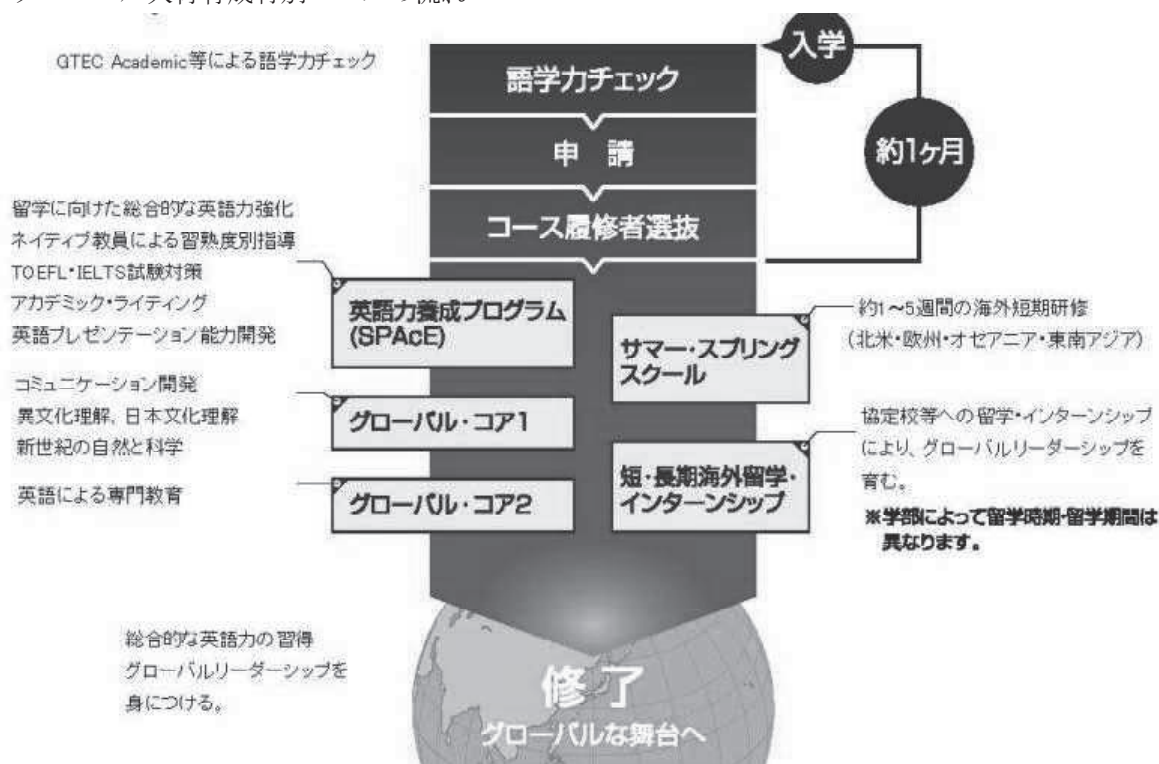
岡山大学グローバル人材育成院では、グローバルに活躍できる人材の育成を目的として、「グローバル人材育成特別コース」を開設しています。このコースの学生は入学した学部所属しながら、豊かな国際感覚とグローバルリーダーシップを育むため、英語力養成プログラムのほか、異文化や日本文化への理解を深めながら論理的思考力やコミュニケーション能力を培うグローバル・コア科目など、充実したカリキュラムで学びます。

グローバル人材育成院では、海外での語学研修、留学、インターンシップ、帰国後の専門教育科目の履修まで、グローバル人材育成特別コースの学生の学修をサポートしています。

⇒詳細はこちら

グローバル人材育成院ホームページ <http://global.okayama-u.ac.jp/index.html>

グローバル人材育成特別コースの流れ



本コースには、上記とは別に「学部・学科型プログラム」もあります。（詳細はホームページをご参照ください。）

## 3. ナンバリングコード

ナンバリングコードとは各授業科目の分野、対象学生及び授業内容のレベル等を分類し、特定の記号や番号を付すことで教育課程の体系性を明示するコードのことです。

岡山大学のナンバリングコードは、「AREA t TGET x pqr W」の14桁で構成されており、「AREA＝分野」「t＝授業形態」「TGET＝対象学生」「x＝レベル」「pqr＝授業を識別するための連番」「W＝留意事項の有無」の6つのカテゴリーに区別されます。各カテゴリーの詳細については「巻末資料（P.51～）」をご覧ください。

なお、ナンバリングコードは各授業科目のシラバスに掲載されています。詳細については、WEBシラバスで確認してください。

# 1. 岡山大学における教育

## 1-4 大学で学ぶために

### 1. 資料に目を通す

大学では、自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。そのため  
の資料として、次のようなものが用意されています。

- ・『教養教育科目 履修の手引・授業時間表』（本冊子）
- ・各学部の『学生便覧』または『履修の手引』※名称は学部により異なることがあります。
- ・各学部の『授業時間割』※名称は学部により異なることがあります。
- ・『授業概要（シラバス）』※名称は学部により異なることがあります。

なお、シラバスには、次のとおり2種類のシラバスがあります。

教養教育科目 シラバス	本学のホームページから閲覧することができます。 <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/">https://www.okayama-u.ac.jp/</a> →「在学生・保護者の方」→「シラバス」 このWebシラバスは、必要に応じて教員が随時内容を更新します。
各学部シラバス	各学部ごとに作成したもので、専門教育科目に加え、今年度開講する 教養教育科目のうち、当該学部の学生が履修可能なもののみを抽出し、 掲載しています。ただし、学部によってはWeb上での閲覧のみとしてい る場合があります。

シラバスには、授業概要や授業担当教員名の他、ナンバリングコード、オフィスアワー、到達目標、  
授業計画、授業時間外の学習（予習・復習）方法、授業形態、教科書、参考書等、成績評価、受講要件  
などが記載してあります。シラバスは、皆さんが授業科目を履修する際、準備学習等を進めるための基  
本となるものです。また、授業の内容を事前に把握できるので、計画的・体系的な授業科目の選択が可  
能となります。

皆さんが、大学を卒業するためには、それぞれの所属する学部学科等によって決められている教養教  
育科目及び専門教育科目の卒業要件単位数を満たさなければなりません。

そのために、自分で履修計画を立てなければなりません。まず自分の時間割をつくる必要があります。  
大学では、これまでと違って自由に授業を選べるわけですから、ひとりひとり違う時間割があること  
になります。

受けてみたい授業が決まったら、履修の手続きが必要になりますが、必ず受けなければならない授業  
（必修科目）などが、学部学科等によって決まっているので、注意してください。

### 2. 時間割をつくる

時間割と授業概要（シラバス）を見て受講する予定の授業を選びます。

# 1. 岡山大学における教育

## 3. 授業の登録

受ける授業が決まったら、学内のパソコンでWebによって履修科目を登録します。  
Web履修登録の入力期間は、学部により異なりますので、掲示（所属学部の掲示板）に注意してください。

## 4. 掲示

休講・補講・試験に関する情報などは、掲示によってお知らせします。  
夜間開講の教養教育科目については、法学部・経済学部の夜間主コース掲示板で確認するようにしてください。  
昼間開講の教養教育科目を履修する場合は、一般教育棟A棟1階の掲示板で確認するようにしてください。  
補完的に岡山大学ホームページや学務システム（Web）に情報を掲載します。

## 5. その他

教養教育科目について分からないことがあったら、一般教育棟A棟2階の学務企画課教育支援グループ（②番窓口）で相談してください。

## 2. 岡山大学における学び

岡山大学での学びについて少し理解できましたか？おそらく高校までとは違う印象を持たれたのではないのでしょうか。学ぶ内容が違えば方法も異なります。ここでは、大学の授業のしくみについて説明します。

### 2-1 学年暦

岡山大学の一年間は、高校と同じ4月から翌年3月までの**年度方式**をとっています。

2019年度の行事予定である学年暦や前期の皆さんに関する大事なスケジュールは4頁の主要なスケジュールにあります。

### 2-2 学年と学期

岡山大学では、2016年度から、1学年を4分割する4学期制を導入していますが、夜間主コースでは、1学年を「前期」と「後期」に2分割する**2学期制**を当面の間採用します。多くの授業は、1科目について15回行うことを基本としていて、学期ごとに完結します。

平成30年度

学 年		4月 1日 ~ 3月31日 (翌年)
前 期 (4月1日~ 9月30日)	第1学期	4月 1日 ~ 6月12日
	第2学期	6月13日 ~ 8月10日
	夏季休業	8月11日 ~ 9月30日
後 期 (10月1日~ 3月31日)	第3学期	10月 1日 ~ 12月 1日
	第4学期	12月 2日 ~ 2月14日 (冬季休業：12月25日~1月4日)
	春季休業	2月15日 ~ 3月31日

※年度により、各学期の開始・終了日は異なります。学期の開始・終了日については、年度毎に公示します。

### 2-3 授業日程と授業時限

岡山大学の授業は、1科目15回が基本です。なお、期末試験を行う場合は16回となります。

また、1回の授業時間（1時限）は1時限目から8時限目は60分で、夜間主コースの授業が行われる9・10時限目は90分です。時限ごとの授業時刻は次のとおりです。

1時限目	8:40 ~ 9:40
2時限目	9:50 ~ 10:50
3時限目	11:00 ~ 12:00
4時限目	12:50 ~ 13:50
5時限目	14:00 ~ 15:00
6時限目	15:10 ~ 16:10
7時限目	16:20 ~ 17:20
8時限目	17:30 ~ 18:30



## 2. 岡山大学における学び

夜間主コース	9時限目	18:00 ~ 19:30
	10時限目	19:40 ~ 21:10

なお、授業科目によっては、時限を通して行うものや週2回開講するもの、集中講義で行うものなどがありますので、注意してください。

### 2-4 単位の基準

大学での学修は単位制度を基本としています。

1単位は、教員が教室等で授業を行う時間及び学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間の合計で標準45時間を要する教育内容をもって構成されています。

ただし、単位数は、個々の授業の種類や形態によって異なります。

岡山大学の教養教育科目については、次の基準により1単位が設定されています。なお、「大学の授業による学習時間」には期末試験に要する時間を含みません。

岡山大学の教養教育科目については、次の基準により1単位が設定されています。

授業の種類・方法	大学の授業による学習時間	授業時間外の学習時間
講義	15時間	30時間
演習	15~30時間	30~15時間
実験	30~45時間	15~0時間
実習	30時間	15時間

通常、講義科目1単位を修得するためには、1回1時間の授業に15回出席し、当該授業に関する自学・自習・レポート作成等を行い、さらに試験等に合格することが必要です。

### 2-5 成績の評価

岡山大学ではGPA制度を導入しています。GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、欧米で一般的に行われている成績評価制度のことです。

GPA制度の成績の表し方とGP（グレード・ポイント）の換算は次のとおりです。

評語	GP	評点	基準等
A+	欄外のGP算出方法を参照	90~100点	合格（単位を授与する。）
A		80~89点	
B		70~79点	
C		60~69点	
F	0	0~59点	不合格（単位を授与しない。）
W	対象外	付さない	履修登録後において、履修取消手続きを行った授業科目

## 2. 岡山大学における学び

評語	G P	評点	基準等
認定	対象外	付さない	① 入学前の既修得単位及び転学、編入学等の既修得単位について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を授与する場合 ② 他の大学等において履修し修得した授業科目の単位又は大学以外の教育施設等における学修について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を授与する場合で、評点により評価しがたい場合
修了	対象外	付さない	本学の開設する授業科目のうち、授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたいもの、若しくは一定の到達度をもって評価し単位を授与する場合
未修得	対象外	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で、不合格（単位を授与しない。）とする場合

G P（グレード・ポイント）算出方法

$$G P = (\text{評点} - 55) / 10$$

※ただし、評語「F」（不合格：評点60点未満）のG Pは0とします。また、「W」, 「認定」, 「修了」, 「未修得」については、対象外としG Pを付しません。

### 1. GPA制度導入の目的

- ①成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザーの教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ②G P Aを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- ③学生に対して修得単位数だけでなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

### 2. GPAの算出方法

履修登録した科目ごとにG Pに単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$G P A = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のG P}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

#### G P Aの実際の計算方法例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	G P (b)	a × b
〇〇学概論	1	95	A+	4	4.0
〇〇学要説	1	85	A	3	3.0
□□学演習Ⅰ	1	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	0.5	70	B	1.5	0.75
△△基礎実験	0.5	90	A+	3.5	1.75
計	4				9.5

## 2. 岡山大学における学び

前ページの表の学生の場合

履修登録した授業科目の単位数の和 = 4

(履修登録した授業科目の単位数 × 当該授業科目のG P) の和 = 9. 5

$$\text{GPA} = 9.5 \div 4 = 2.375 \Rightarrow \underline{2.38}$$

※小数点第3位は四捨五入します。

### 3. GPAの対象とならない科目

- ・ 評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
- ・ 岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- ・ 履修登録後において、履修取消手続きを行った授業科目

## 2. 岡山大学における学び

### 2-6 特別な単位の認定

#### 2-6-1 入学前の既修得単位の認定

下記の者については、大学・短大等における既修得単位が認定されることがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

1. 大学または短期大学を卒業あるいは中途大学した者で、新たに第1年次に入学した者
2. 編入学した者

#### 2-6-2 放送大学の修得単位の認定

本学が指定した放送大学の開設科目を修得した場合、単位の認定が認められることがあります。詳細については所属学部の学生便覧を参照してください。

#### 2-6-3 外部検定試験による単位の認定

GTEC, TOEIC, TOEFL等の外国語技能検定試験のスコアや成績により、言語科目の単位認定を申請することができます。単位認定基準は、19点～20点のとおりです。

なお、単位認定の申請手続きは、各学部の教務学生担当窓口で行ってください。

#### 2-6-4 留学による単位の認定

岡山大学交換留学プログラム(EPOK)など、本学との交流協定に基づき外国の大学に留学した場合には、留学先大学での修得単位を本学の修得単位として認定されます。詳細については各学部の教務担当窓口で確認してください。

#### 2-6-5 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定

本学との単位互換協定に基づき、他大学や高等専門学校専攻科等の授業科目を履修した場合には、他大学等で修得した単位が本学での修得単位として認定されることがあります。

岡山大学では、岡山県内の大学で構成する「大学コンソーシアム岡山」の単位互換協定に参加しています。これらの単位互換制度については、前期は4月第1週頃、後期は7月から9月中旬頃に履修生の募集を行います。募集時期等の詳細については、掲示等でお知らせします。

その他の大学等についても、協定に基づき単位を認定するものがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

認定については、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとします。

2019年度入学者（夜間主コース）

外国語の種類	単位認定の対象とする外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
英語	TOEIC 又は TOEIC IP	800点以上	教養教育科目の英語科目のうち、 以下を除く全ての授業科目 英語（ネイティブ） 英語（オラコン） 英語（作文・文法） 英語（読解） 英語（検定）	4単位まで
	実用英語技能検定（英検）	1級		
	国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	A級		
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	554点以上		
	TOEFL iBT	75点以上		
	IELTS	6.0点以上		
	GTEC Academic 4技能	646点以上		
	GTEC Academic 2技能	331点以上		
	TOEIC 又は TOEIC IP	750点以上	教養教育科目の英語科目のうち、 以下を除く全ての授業科目 英語（ネイティブ） 英語（オラコン） 英語（作文・文法） 英語（読解） 英語（検定）	2単位 まで
	実用英語技能検定（英検）	準1級		
	国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	B級		
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	532点以上		
	TOEFL iBT	68点以上		
	GTEC Academic 4技能	613点以上		
GTEC Academic 2技能	313点以上			
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	3級以上	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語中級	4単位まで
		4級	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本）	2単位 まで
		5級	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本）	1単位 まで
フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語中級	4単位まで
		4級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本）	2単位 まで
		5級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本）	1単位 まで

中国語	漢語水平考試 (HSK) (筆記試験のみ)  ※5級・6級については、180点以上のスコアを獲得した場合、単位認定の対象とする。	3級以上	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本) 中国語初級Ⅱ (文法) 中国語初級Ⅱ (読本) 中国語中級	4単位まで
		2級	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本) 中国語初級Ⅱ (文法) 中国語初級Ⅱ (読本)	2単位まで
		1級	中国語初級Ⅰ (文法) 中国語初級Ⅰ (読本)	1単位まで
韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級Ⅰ-1 韓国語初級Ⅰ-2 韓国語初級Ⅱ-1 韓国語初級Ⅱ-2 韓国語中級	4単位まで
		1級	韓国語初級Ⅰ-1 韓国語初級Ⅰ-2 韓国語初級Ⅱ-1 韓国語初級Ⅱ-2	2単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語ベーシック1~4 スペイン語ステップアップ	4単位まで
		5級	スペイン語ベーシック1~4	2単位まで
		6級	スペイン語ベーシック1及び2	1単位まで
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語ベーシック1~4 イタリア語ステップアップ	4単位まで
		4級	イタリア語ベーシック1~4	2単位まで
		5級	イタリア語ベーシック1及び2	1単位まで

備考 1 「GTEC Academic 4技能」のスコアのうち、2技能のみを用いて、「GTEC Academic 2技能」の単位認定の対象とすることはできない。

# 3. 教養教育の学び

## 3-1 岡山大学ディプロマポリシー（DP）・教養教育DP要素・コンピテンシー

ディプロマポリシー（DP）とは、大学全体や学部・学科等の教育研究上の目的、学位授与の方針を定めたものです。

岡山大学では、大学が育成する人材像を「学位取得のために身につけているべき能力」という面から捉え7つの5項目から成る大学DPを「学生の目線」で作成しています。さらに、学部、学科等ごとにもDPを作成しており、それぞれを関連付けて、大学DPの下、学部DP、学科DP等が一体となる運用を目指しています。

また、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化し、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできる限り具体的に示すことを目的として、観察可能な能力（＝コンピテンシー）を学部DP、学科DP等に対応させて明示しています。

教養教育科目を学修することによって育成される人材像（身につけているべき能力）を教養教育DP要素として作成し、大学DPの項目と対応させています。さらに、教養教育DP要素に対応するコンピテンシーを以下のとおり設定し、個々の教養教育科目と関連付けることにより、個々の教養教育科目の授業内容を大学DPと関連付けさせることが可能となっています。

大学DP	教養教育DP要素	コンピテンシー	コンピテンシーの内容説明
教 養	人間性・倫理観	人間性・倫理観	豊かな教養の基礎となる人間性・倫理観を身につけることができる
	創造力・想像力	創造力・想像力	新たな発想・発見につながる創造力・想像力
	理論的思考・判断力	論理的思考・判断力	主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力
	幅広い分野への知的関心	幅広い分野に対する関心	自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に対して関心を寄せる力
	幅広い分野の知識習得	幅広い分野に関する基礎力	自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に関する基礎力
専 門 性	特定分野のための基礎的能力	特定分野に関する基礎力	自分の目指す専門分野のための基礎力
情 報 力	情報収集力	情報収集力	自ら進んでエビデンスに基づいた情報を収集することができる
	情報活用力	情報活用力	得られた情報を正しく分析・活用する能力
	情報発信力	情報発信力	情報の収集・分析・活用から積極的かつ効果的な情報発信ができる
行 動 力	主体的行動力	課題を発見・解決する力	自ら社会の中の課題を発見し、解決に向けて行動することができる
	国際感覚	コミュニケーション能力	グローバル社会で、他者と共に生活するための言語的または非言語的な意思疎通ができる

巻頭

1 岡山大学における教育

2 岡山大学における学び

3 教養教育の学び

4 授業の履修手続き

5 受講上の注意

6 試験及び成績の評価

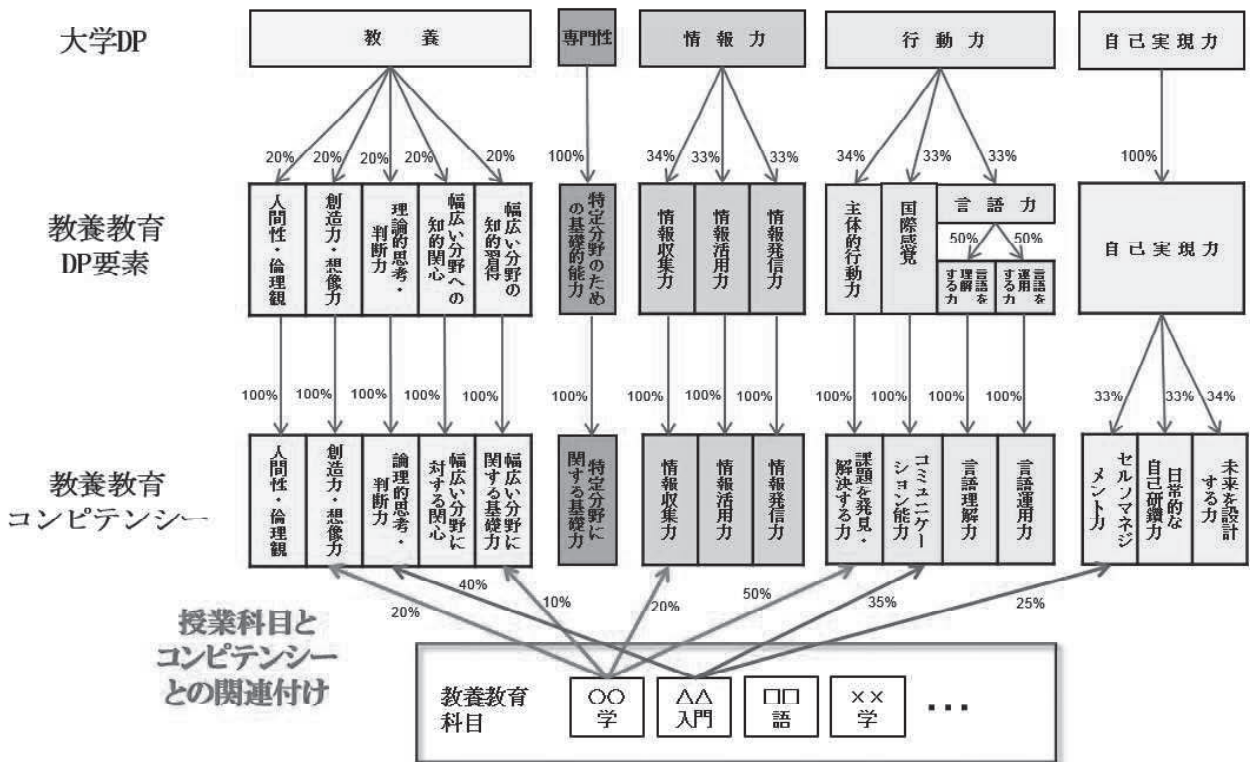
7 学びのサポート

巻末資料

# 3. 教養教育の学び

大学DP	教養教育DP要素		コンピテンシー	コンピテンシーの内容説明
行 動 力	言語力	言語を理解する力	言語理解力	言語の法則を知る能力
		言語を運用する力	言語運用力	言語の実際を知る能力
自己実現力	自己実現力		セルフマネジメント力	目的を達成するために、自らの持てる資質を管理し、適切に運用することができる
			日常的な自己研鑽力	常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努めることができる
			未来を設計する力	自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる

## 大学DP・教養教育DP要素・コンピテンシーの構成



教養教育では、皆さんが自ら考え行動するために必要な知の基本を培うことに重点が置かれています。そのために、教養教育科目には本学ディプロマポリシーに掲げる学士力のうち主として【教養】、【行動力】、【情報力】に関連する多彩な授業科目が開設され、次のような科目区分が設定されています。

教養教育科目には6つの科目区分、すなわち、導入教育科目、知的理解科目、実践知・感性科目、汎用的技能と健康科目、言語科目、高年次教養科目があり、それぞれのテーマ・分野・言語ごとに複数の授業科目が開設されています。

学生の皆さんは、所属する学部学科等において定められている卒業要件に従って、それぞれの科目区分から授業科目を選んで履修し、卒業に必要な単位を取得するとともに、履修した授業科目に関連した教養教育DP要素に掲げる学士力を習得します。



# 3. 教養教育の学び

## 3-2 導入教育科目

導入教育とは高等学校から大学への円滑な移行を促すことや、入学後の教育効果をより高めることを目的とした、正規課程に付随した教育プログラムをいいます。

岡山大学では、導入教育として以下の「全学ガイダンス」「学部ガイダンス」「補習教育」を設定しています。

### 「ガイダンス」

#### 1) 全学ガイダンス（「岡山大学入門講座」）

学部に関係なく、これから本学で学び社会へ羽ばたくために、初年次に修得する全学必修の1単位科目です。岡山大学生をスタートするために必須となるスタートアップ領域、自分・大学・社会を知り人生について考えるためのキャリア教育領域、自分自身を守っていくために必要なセルフマネジメント領域で構成されています。この授業科目は、教養教育に関するコンピテンシーのうち、「教養—人間性・倫理観」,「教養—幅広い分野に対する関心」,「自己実現力—セルフマネジメント力, 日常的な自己研鑽力, 未来を設計する力」と主に関連しています。

#### 2) 学部ガイダンス

各学部が所属学生を対象として開講するもので、大学で主体的かつ能動的に学ぶために必要なスタディ・スキルやコミュニケーション・スキルを学修します。この授業科目は、教養教育に関するコンピテンシーのうち、「教養—幅広い分野に対する関心」,「専門性—特定分野に対する基礎力」,「情報力—情報収集力」と主に関連しています。

「学部ガイダンス」は、各学部あるいは学科・課程・コース単位に当該学部所属学生を対象として開講するもので、他学部学生は履修できません。

### 「補習教育」

高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図るため、「初等数学1」,「初等数学2」,「初等物理学1」,「初等物理学2」,「初等生物学1」,「初等生物学2」の6科目を補習教育科目として開講します。これらの科目は、教養教育に関するコンピテンシーのうち、「教養—幅広い分野に対する関心, 幅広い分野の基礎力」と主に関連しています。

#### 1) 開講期・曜日・時限

第1学期 月曜7・8限 初等数学1, 初等物理学1, 初等生物学1

第1学期 木曜7・8限 初等物理学1, 初等生物学1

第2学期 月曜7・8限 初等数学2, 初等生物学2

第2学期 木曜7・8限 初等生物学2

#### 2) 履修対象者・履修対象学部

高等学校において数学Ⅲ, 物理, 生物を履修していない全学部の学生を対象とします。また、定員に余裕がある場合は既修者の履修も認めます

#### 3) 単位数及び成績評価

1 授業科目の単位数は1単位とし、「修了」の評語をもって成績を評価して単位を授与します。ただし、卒業要件単位としては算入されません。

#### 4) G P A制・上制限・授業評価アンケート

卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、G P A制・上制限の対象とはしません。また、授業の効果を検証するため、授業評価アンケートの対象とします

## 3-3 知的理解科目

現代世界が提示する多様な諸問題への関心を呼び起こし、人類が過去から蓄積してきた知の拠り所への学び(古典知)を通じて、自らと世界とのかかわりを常に生き生きと把握する知的理解力を養います。講義科目には、現代的問題に焦点を合わせた科目と、より広範な基礎的テーマの科目を設定しています。なお、知的理解科目の中に次の3つのグループを設定しています。

# 3. 教養教育の学び

## 「現代と社会」

社会のグローバル化のもとに、急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れる。とりわけ、政治・経済・社会・文化・思想・宗教等の分野で進行する知識の断片化を克服し、現代社会の全体像を理解する。

## 「現代と生命」

科学技術の急速な進歩による生命科学の最先端分野での発展を、その研究の歴史的展開を踏まえて具体的に理解する。また、医療生命科学分野の全体像を把握する。

## 「現代と自然」

科学技術の急速な進展と自然界の解明の現状を理解する。また、人間による自然環境破壊と環境再生の実像に触れ、自然に対する全体的・原理的理解に努める。

### 3-4 実践知・感性科目

時代と社会をリードする行動力と創造力を生み出し、豊かな感性を育むために、実践知と芸術知を養います。

## 「実践知」

### 1) 実践型社会連携教育科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を取り上げ、その解決のために必要な実践知（市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チーム力、責任・気概）を養います。実社会の様々な関係者と協働して活動し、問題発見や解決のための技能や態度、素養を培うことができます。

教養教育に関するコンピテンシーのうち、「教養一人間性・倫理観」、「教養—論理的思考・判断力」、「教養—幅広い分野に対する関心」、「情報力—情報活用力」、「行動力—課題を発見・解決する力」と主に関連しています。

学外の現場での活動を実施する場合、時間割に設定されていない時間帯（土日祝など）に授業時間を振り替えたり、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件としたりしていることがあるので留意してください。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がなければ閉講になることがあります。現場で受け入れてくれる関係者、チームのメンバーに迷惑がかからぬよう、最後までやり抜くことがなにより重要です。

### 2) 科目のタイプ分け

実践型社会連携教育科目は、その内容によりいくつかのタイプに分けられます。タイプ分けは、1) 社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数など）、2) その科目の学習環境がグローバルであるか、で判断します。

次表のとおり、全授業時間のうち現場での実践活動の時間の多いものが「Aタイプ」、少ないものが「Bタイプ」となり、さらに、学修する環境が外国や、国内であっても外国人コミュニティで学ぶといった異文化体験の深さにより、A及びBにG（グローバル）またはG<sup>+</sup>を冠しています。A、B及びG、G<sup>+</sup>の組み合わせにより、以下に示す①から⑦のタイプがあり、シラバスの授業形態欄に明記されています。タイプの特性を理解したうえで履修計画を立ててください。

◆ シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されています。

「該当せず」

- ①Aタイプ（社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い）
- ②Bタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）
- ③G<sup>+</sup>Aタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くAタイプ）
- ④GAタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するAタイプ）
- ⑤G<sup>+</sup>Bタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くBタイプ）
- ⑥GBタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するBタイプ）
- ⑦Cタイプ（実習や演習として実践的だが社会連携したものでない）

### 3. 教養教育の学び

表. タイプ分けの基本

判断基準	記号	解説
社会連携した実践活動の度合い	A	a) 地域や企業等の現場に出向き、 b) その時間数が全授業時間数の3分の1以上 c) 成果報告会を開催する（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい）の3条件を満たす。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動が1回以上ある。ただし、単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。
学修環境としてのグローバル要素の付加	G <sup>+</sup>	社会連携して学修する現場が外国または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入っていく授業。
	G	留学生と日本人学生が協同することにより異文化理解を進めつつ学ぶ授業、海外とのテレビ会議など多言語で討論が行われる授業など。

#### 「芸術知」

「芸術知」は「実践知・感性」関連の授業科目であり、教養教育科目授業時間及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。この科目群は、優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加等を通して、創造性と豊かな感性を養います。

#### 3-5 汎用的技能と健康科目

学問の追求に加えて、学生生活を充実させて社会へ向かうために必要な知識・技術及び能力を養います。また、これらの土台ともいえる健全な心身を築きます。

#### 「情報教育」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やICT（Information & Communication Technology）活用能力を修得します。

##### 1) 情報リテラシー系科目

情報リテラシー系科目は、教養教育に関するコンピテンシーのうち、「情報力ー情報活用力」、「情報力ー情報収集力」、「情報力ー情報発信力」に加え、「教養ー幅広い分野に関する基礎力」、「行動力ー課題を発見・解決する力」に関連しています。

情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止のための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを目標にします。

また、学生生活に必須な学内の各種ICTサービスの活用方法、ICT機器の設定方法などの必須の知識を修得します。

本科目は教職課程での教員免許のために必須の科目です。

##### 2) ICT（Information & Communication Technology）系科目

ICT系科目は、教養教育DP要素のうち、「情報力ー情報活用力」、「情報力ー情報収集力」、「情報力ー情報発信力」と主に関連しています。

ICT系科目は、情報リテラシー系科目を発展した、より高度な技術を学習します。

インターネット関連技術、高度情報セキュリティ技術、IT英語の授業を実施します。

これにより、インターネットの安全、安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識が修得できます。

# 3. 教養教育の学び

## 「キャリア教育」

学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得します。

特に「キャリアデザイン」という複数のテーマ別授業科目があります。他者とのコミュニケーションを円滑にできるようになるための「Ⅰ. コミュニケーション力に磨きをかける」や「Ⅱ. つなげる！つながる！みんなのキャリア」、社会にある様々な課題解決に取り組むための「Ⅲ. プロジェクトを企画し実行する力を養う」、企業や業界に関する知識を獲得して将来設計に生かすための「Ⅳ. 企業を知り、業界を知る」や「Ⅴ. 職業選択と自己実現」などで構成されています。

これらの授業科目は、教養教育に関するコンピテンシーのうち「情報力ー情報収集力、情報活用力、情報発信力」、「行動力ー課題を発見・解決する力」、「自己実現力ーセルフマネジメント力、日常的な自己研鑽力、未来を設計する力」と主に関連しています。

## 「健康・スポーツ科学」

生命・保健科学関連の授業科目で、教養教育科目授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。教養教育に関するコンピテンシーのうち、「教養ー創造力・想像力、幅広い分野に関する基礎力」「行動力ー課題を発見・解決する力」、「自己実現力ーセルフマネジメント力、日常的な自己研鑽力、未来を設計する力」と主に関連しています。

- 1) 健康・スポーツ科学 ※A, Bは抽選あり, Cは抽選なし  
健康・スポーツ科学は後期・月曜日9限に開講します。  
健康・スポーツ科学AおよびBは、1～4学期に指定された時限で開講します。  
健康・スポーツ科学Cは1～4学期またがり・水曜日9, 10限に開講します。この授業は4月10日に一般教育棟D棟1階「スポーツ支援室」にてオリエンテーションを行います。履修希望者はシラバスの授業日を確認してください。健康・スポーツ科学Cは教育職員免許状を取得のための科目ではありません。
- 2) するスポーツ演習 ※抽選あり  
通常時間帯に開講している各運動領域の実技に加えて、e-ラーニング (Moodle) を活用したスポーツ理論学習と各自で運動プログラムを作成し、実践・記録を含む授業です。するスポーツ演習はすべてに授業において、学部・学年の制限がありません。  
初回の授業は第2体育館にておこないます。
- 3) みるスポーツ演習 ※抽選なし  
みるスポーツ演習A-Iは1学期の月曜日7, 8限、みるスポーツ演習A-IIも同じ曜日・時限で、1, 2学期連続履修を前提とした授業です。みるスポーツ演習B-I, B-IIも同様で、3, 4学期の月曜日7, 8限に開講します。調査演習形式の実践型科目です。  
みるスポーツ演習は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。
- 4) 支えるスポーツ演習 ※抽選なし  
支えるスポーツ演習Aは、出身高校において運動部活動の指導・支援をおこなう実践型科目です。  
支えるスポーツ演習A履修希望者は4月に活動内容・期限等の詳細を説明してから開始しますが、早めに詳細を知りたい場合は一般教育棟D棟1階「スポーツ支援室」にて、授業担当者と相談してください。

## 「アカデミック・ライティング」

ライティングは、専攻分野を問わず、すべての知的活動の基本的な技量、コミュニケーション能力となります。さらに、学術的な場面のみならず、学内外の日常的な場面においても中核となる能力です。したがって、ライティングにより獲得される思考力とコミュニケーション能力は、大学を離れたのちにもヒトの生涯を通して極めて重要な拠り所となるものと考えられます。

アカデミック・ライティングでは、論文を書くための技量のみではなく、思考力を伸ばしたり論理的に表現したりすることを学び、自分で論理的に思考したことを書くことにより表現するコミュニケーション力を養うことを目的としています。

# 3. 教養教育の学び

この科目では、以下のように論証型論文の基礎を理解し実践できるようになることを目標としています。

- ・自分の考えや意見などを正確に、意図した相手に伝える文章を書くことができる。
- ・事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる。
- ・文字や表記に注意して文章の体裁を整えることができる。

これらのライティングの能力は、教員の細やかな指導と学生の書き直しをする反復作業によってゆっくりと醸成されます。そこでは教員・学生間の対話と信頼関係が必要であり、ディスカッションや相互評価が不可欠な活動となります。

なお、教養教育に関するコンピテンシーのうち、「教養－論理的思考・判断力」、「行動力－言語運用力」、「情報力－情報活用力」、「情報力－情報発信力」と主に関連しています。

## 3-6 言語科目

言語の深い修得を通じて、言語の持つ価値や世界観を理解し、グローバル社会を洞察する力や社会に情報を発信するコミュニケーション力を養う。

### 「英語」

英語には、英語（ネイティブ）、種別英語、基礎英語、プレ上級英語、上級英語があり、各学部学科の卒業要件に従って履修することになります。

言語科目の英語は、教養教育に関するコンピテンシーのうち、「行動力－言語理解力」、「行動力－言語運用力」、「行動力－コミュニケーション能力」と主に関連しています。

#### 1) 英語（ネイティブ）

英語（ネイティブ）は、1年次に開講されます。ネイティブスピーカーが英語のみで行う授業で、英語コミュニケーション能力を身につける機会を提供します。

単位未修得による再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

#### 2) 種別英語

種別英語は、英語教員が担当する授業で、2年次に開講され、4種別があります。

一度履修し、単位未修得となった場合の再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

授業科目名	授業概要
英語（オラコン）	英語のオーラルコミュニケーション（リスニング、スピーキング）能力を伸ばすことを目的とします。ディクテーション、コンプリヘンション、ディベート、ディスカッション等の幅広い内容があります。教材としては、テレビ・ラジオのニュース、映画等も含まれます。
英語（作文・文法）	既習の文法事項を復習し、定着させつつ、英語による表現能力の向上をはかることを目的とします。 論文、エッセイ、手紙、E-mail等の書き方から日常会話に近い口語的表現の指導までが含まれます。
英語（読解）	人文分野、社会分野及び自然分野の教材を用いて、英語を読む能力を磨くことを目的とします。教材としては、言語、歴史、異文化理解、社会科学、自然科学等に関するエッセイやインターネット上の情報、あるいは新聞、雑誌等の時事英語、科学技術英語や医療英語の教科書等も含まれます。
英語（検定）	実用英語検定、TOEIC、TOEFL等、外部検定試験に合わせた練習を行い、実用的な英語力の養成を目的とします。教材としては、これらの試験に対応した問題集等も含まれます。

巻頭

1 岡山大学における教育

2 岡山大学における学び

3 教養教育の学び

4 授業の履修手続き

5 受講上の注意

6 試験及び成績の評価

7 学びのサポート

巻末資料

# 3. 教養教育の学び

## 3) 基礎英語 ※ 同一科目の繰り返し履修可

基礎英語は、大学入学までの英語学習時間が不足した学生のための授業です。「修了」の評語をもって単位を授与し、卒業要件単位としては算入されません。

## 4) プレ上級英語、上級英語 ※ 同一科目の繰り返し履修可

プレ上級英語、上級英語は、学力はあるがもう一度英語を学び直したい学生を含め、ステップアップを目指す学生のために発展的な内容を教えることをねらいとしています。

履修を希望する学生は、履修要件がありますので、昼間用履修の手引32ページを確認し、必ず最初の授業に出席して担当教員から履修の許可を受けてください。

## 「初修外国語」

初めて学ぶ外国語では、7つの言語が開講されています。

「韓国語」、「ロシア語」、「スペイン語」、「イタリア語」は、昼間開講です。

ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語

言語科目の各初修外国語は、教養教育に関するコンピテンシーのうち、初級（またはベーシック）については「教養—幅広い分野に対する関心」、「行動力—言語運用力」、「行動力—言語理解力」、「行動力—コミュニケーション能力」、「自己実現力—セルフマネジメント力、日常的な自己研鑽力、未来を設計する力」と主に関連しています。また、中級（またはステップアップ）については「教養—幅広い分野に対する関心」、「行動力—言語理解力」、「行動力—言語運用力」、「自己実現力—セルフマネジメント力、日常的な自己研鑽力、未来を設計する力」と主に関連しています。

### ■[夜間主コース時間帯開講の初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)]

#### 1) 初級

初めて履修する場合は、授業時間表の指定及びシラバスの指示に基づいて、前期と後期を通じて同一科目・時限・担当教員の授業科目（前期＝初級Ⅰ、後期＝初級Ⅱ）を履修してください。

#### 2) 中級（中国語を除く） ※ 同一科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

履修を希望する者は、最初の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

### ■[昼間開講の初修外国語(韓国語)]

#### 1) 初級

ア. 初めて履修する場合は、教養教育科目授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づいて、原則として第1学期から第4学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目（第1学期＝初級Ⅰ-1、第2学期＝初級Ⅰ-2、第3学期＝初級Ⅱ-1、第4学期＝初級Ⅱ-2）を履修してください。

なお、1年次生を対象に4月に履修説明会を実施します。履修説明会の際に履修希望調査を行い、第1学期に開講される科目はそれに基づきクラス分けを行いますので、履修を希望する新入生は必ず参加してください。履修説明会に参加しないと、履修ができない場合があります。

イ. 2年次生以上が履修を希望する場合には、1年次生のクラス分けの結果、定員に余裕があるクラスに限り、授業担当教員の許可を得れば履修することができます。

ウ. 2つの授業タイプがありますので選んで履修してください。

1) 60分授業を週2回行う授業[このタイプの授業は、同じ語種の下記2)の授業との同時履修はできません。また、同じ語種の下記2)の科目を単位修得している場合も履修できません。詳細は昼間用履修の手引149ページの開講授業科目一覧の重複履修欄を参照してください。]

### 3. 教養教育の学び

2) 60分授業×2時限を週2回行い集中的に学ぶ「インテンシブ」の授業[このタイプの授業は、同じ語種の上記1)の授業との同時履修はできません。また、同じ語種の上記1)の科目を単位修得している場合も履修できません。詳細は昼間用履修の手引149ページの開講授業科目一覧の重複履修欄を参照してください。]

注意：対象学生が指定されている場合はその授業タイプしか履修できません。

- 2) 中級 ※ 同一名科目の繰り返し履修可  
1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。  
履修を希望する者は、最初の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

#### ■[昼間開講の初修外国語(ロシア語・スペイン語・イタリア語)]

##### 1) ベーシック (週1回のみ開講)

ア. 開講曜日・時間帯は以下の通りです。

ロシア語ベーシック1～4 : 金曜7限・8限

スペイン語ベーシック1～4 : 火曜7限・8限

イタリア語ベーシック1～4 : 金曜7限・8限

イ. 再履修(一度履修したが、単位修得できなかった)の場合には、翌年度の同一授業科目を履修してください。

##### 2) ステップアップ ※ 同一名科目の繰り返し履修可

ア. 開講曜日・時間帯は以下の通りです。

ロシア語ステップアップ : 金曜5限・6限

スペイン語ステップアップ : 火曜5限・6限

イタリア語ステップアップ : 月曜7限・8限

イ. 1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。  
履修を希望する者は、最初の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

## 3-7 高年次教養科目

専門的素養を習得した3, 4年次生(高年次生)に対して、専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教養教育科目を高年次教養科目として設定し、学生の習熟度と関心に応じた段階的教養教育を実施します。

高年次教養科目の授業は、基本的に各学部の専門教育の時間帯に実施されます。

履修に当たっては、次の各事項に留意してください。

- 一部の科目については、開講学部以外の学生の履修を認めています。  
所属学部が開講している以外の「高年次教養科目」を履修する場合、修得した単位を教養教育科目の卒業要件にどのように算入するか事前に所属学部の掲示板等でよく確認して履修してください。
- 指定された一部の科目については、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、事前に履修希望登録を行い、履修希望者多数の場合には、抽選を実施し履修者を決定します。開講学部以外の学生で履修を希望する場合は、必ず登録してください。登録期間や方法の詳細については、一般教育棟A棟の掲示板を確認してください。

# 4. 授業の履修手続き

大学の授業を受講するためには、「履修登録」の手続きを行う必要があります。「この授業科目をうけますよ。」という意思表示する手続きのことです。高校では決められた時間割どおりに学習しますが、大学では、皆さんの意思で、学習したい授業科目を選択できる「選択科目」があり、一定の範囲の自由度があります。もちろん、卒業や資格取得にはこの授業科目の単位が絶対必要という「必修科目」がありますから、注意が必要です。

また、履修に際しては、いろいろなルールがあります。以下の説明をよく読んで、皆さん自身の責任で履修の制度を確認し、学習目的に沿った授業科目を選択してください。履修制度の勘違いや、登録漏れなどによって、進級や卒業ができなかったり、卒業時期が延びることもありますから気をつけてください。

履修登録は、学期毎に、学務システム（Web）から行います。

## 4-1 履修登録に必要なもの

- 岡大ID及びパスワード（入学時に大学から配布します。）
- 授業時間表
- シラバス

## 4-2 教養教育科目 授業時間表の見方

時限	科目区分	授業科目	単位数	講義番号	担当教員	教室	履修対象の学部・学科等			抽選対象科目	備考
							2019年度入学者	2018年度入学者	2017年度入学者		
1	知的理解（現代と社会）		1	914012	〇〇 〇〇	A34	自然系	自然系	—	★	
	言語科目		0.5	914051	△△ △△	B31	文(1-90)	—	—	●	
	汎用的技能と健康		1	914052	□□ □□	A32	全	全	全	☆	

③
④
①
②
⑤

### ① 学生番号

授業時間表にある（ ）内の数字は、学生番号を省略し、一連番号のみを記載しています。

学生番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要となりますので、学生証は常に携帯し、学生番号も間違いないように記憶しておいてください。

学生番号の構成は次のとおりです。

#### 【法学部法学科夜間主コース501番の学生の場合】

学部コード    元号コード    入学年度    一連番号  
 (2桁)        (1桁)        (2桁)        (3桁)

0 | 3

5

0 | 1

5 | 0 | 1

#### 【学部コード】

学部	学部コード
法学部	03
経済学部	04

巻頭  
1 岡山大学における教育  
2 岡山大学における学び  
3 教養教育の学び  
4 授業の履修手続き  
5 受講上の注意  
6 試験及び成績の評価  
7 学びのサポート  
巻末資料



## 4. 授業の履修手続き

### ② 履修対象の系

履修対象は、個別に指定されている場合を除き、以下のとおりグループ化して表示されます。

社会系：文学部，教育学部，法学部，経済学部

生命系：医学部，歯学部，薬学部，MP，グローバル・ディスカバリー・プログラム  
(MP及びグローバル・ディスカバリー・プログラムの学生は、履修対象をグループ化する際には、便宜上、生命系に含みます。)

自然系：理学部，工学部，環境理工学部，農学部

### ③ 講義番号

6桁の数字が講義番号です。授業科目を履修登録する際に使用する番号になります。

### ④ 教室

夜間に開講する授業は、主に文学部・法学部・経済学部講義棟で行います。

昼間に開講する授業は、一般教育棟ほかで行います。授業の開講されている教室は省略した名称で表示されます。

場所は事前に確認してから授業に行くようにしてください。

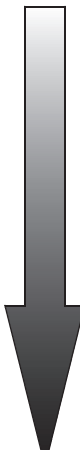
### ⑤ 抽選対象科目

夜間に開講する授業では抽選は行いません。

昼間に開講する授業で抽選の対象となる科目については「★，☆，●又は▲」が記載されています。科目が開講される曜日等によって、抽選の対象学年が異なることがありますので、注意してください。

## 4-3 履修登録のしかた

皆さんは、各自の履修計画に基づいて、履修しようとする授業科目を、皆さん自身が、岡山大学内でパソコンを利用して「履修登録」を行うこととなります。履修登録のしかたについては、「学務系システム利用の手引き」で確認してください。登録期間は、所属学部で異なりますので、注意してください。(履修登録手続きの流れは以下のとおりです。)

- 
- ①教養教育科目履修の手引き・授業時間表および学生便覧等履修関係書類を受け取る
  - ②履修計画を立て、各学期に履修する授業科目を決めてください
  - ③Webによる履修登録（抽選対象科目については事前に皆さん自身で抽選登録を行います。抽選の結果、当選した科目は履修登録されていますので、内容を確認してください）
  - ④履修条件等のエラーがある場合はすぐに修正してください
  - ⑤履修上限単位数を超えている場合や重複して科目を履修している場合は、登録の翌日にWebにエラーが表示されるので、修正してください
  - ⑥登録翌日以降にエラー表示がなければ手続き終了です

## 4. 授業の履修手続き

### 4-4 教養教育科目の抽選について

昼間開講の教養教育科目では、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、授業内容に応じて履修者数の上限を定め、抽選により授業開始前に履修者を決定する科目があります。

なお、科目区分毎に実施方法や留意事項が異なります。詳細は以下の各ページを参照してください。

- ・ 「知的理解科目」、「実践知・感性科目」、「汎用的技能と健康科目」・・・【See→32頁】
- ・ 「言語科目（初修外国語）」・・・【See→28頁】
- ・ 「高年次教養科目」・・・【See→29頁】
- ・ 「他学部が開講する専門教育科目で教養教育科目となるもの」・・・【See→34頁】

#### 「知的理解科目」、「実践知・感性科目」、「汎用的技能と健康科目」の抽選

- 1) 「知的理解科目」、「実践知・感性科目」、「汎用的技能と健康科目」の抽選登録時期は以下のとおりです。詳細についてはその都度掲示しますので、必ず確認してください。

抽選登録時期

第1学期開講科目：

前年度の2月下旬～3月中旬（新入生は第1学期開講科目の抽選はありません）

第2学期・夏季集中開講科目：

5月中旬～5月下旬

第3，第4学期・冬季集中・春季集中開講科目：

8月下旬～9月中旬（第3学期と第4学期の開講科目については同じ時期に抽選登録します）

- 2) 抽選の流れは以下のとおりです。



時間割やシラバス等を確認し、履修を希望する抽選対象科目が決まったら、以下から抽選登録してください。学外からも登録可能です。抽選登録の手順については、掲示や「学務系システムの手引き」を参照してください。（※スマートフォンからも登録可能です。）

岡山大学公式HP→「在学生・保護者の方」→「履修登録・成績確認」  
→「Web抽選登録・抽選結果公開」

抽選結果公開後、当選者が定員まで達していない全ての科目について、Webから**先着順**で追加募集を行います。（追加募集は、Web上で実施します。授業担当教員へ直接、追加募集実施の有無等の問い合わせはできません。）

抽選に当選した科目あるいはWeb追加募集で当選した科目については、学務企画課で履修登録しますので、履修登録期間内に学務システムよりエラー表示を確認してください。

## 4. 授業の履修手続き

### 留意事項

- 1) 「知的理解科目」、「実践知感性科目」、「汎用的技能と健康科目」の抽選対象科目は、抽選で当選した学生あるいはWeb追加募集で当選した学生以外は履修できません。(卒業・進級等の事情により、やむを得ず当選していない教養教育科目抽選対象科目の履修が必要な場合は、所属学部の教務担当窓口にご相談してください。)
- 2) 抽選対象は以下のとおり、科目の開講曜日によって異なります。  
2019年度入学生：月曜日・木曜日開講の科目※ただし、第1学期は夜間主コースを除きます。  
(火曜日・金曜日開講の科目は抽選登録できません。ただし、追加募集には応募可能です。)  
2018年度入学生：火曜日・金曜日開講の科目 (月曜日・木曜日開講の科目は抽選登録できません。ただし、追加募集には応募可能です。(第1学期を除く))
- 3) 「知的理解科目」、「実践知・感性科目」、「汎用的技能と健康科目」であっても抽選を行わない科目があります。

### 4-5 履修登録のルール

#### (1) 教養教育科目授業時間表

昼間開講の教養教育科目を履修する場合は、『教養教育科目履修の手引・授業時間表』により、開講曜日・時限を確認してください。

#### (2) 全学部共通の注意事項

教養教育科目全体の履修のルールや注意事項について確認しましょう。

##### ① 重複履修の禁止

- (1) 既に修得した授業科目を再度履修登録してはいけません。ただし、一部の授業科目では重複履修が認められています。
- (2) 同じ授業科目名の授業は、担当教員や授業内容が異なっても、重複履修することはできません。
- (3) 同一授業時間に開講される複数の授業科目を重複して登録することはできません。
- (4) 上記(1)、(2)にかかわらず、するスポーツ演習、みるスポーツ演習、支えるスポーツ演習、は同一名の授業科目でも重複履修が可能です。また、言語科目の中にも重複履修できるものがあります。【See→44頁「開講授業科目一覧」】

##### ② 昼間授業の受講について

夜間主コースの学生は、学部の定めるところにより、昼間開講の教養教育科目を履修することができます。

#### (3) 各科目の履修上のルール

##### ① 学部ガイダンス科目

各学部あるいは学科・課程ごとに当該学部所属学生を対象として開講されます。シラバス及び掲示等の指示に従って履修してください。

## 4. 授業の履修手続き

### ② 「知的理解科目」、「実践知・感性科目」、「汎用的技能と健康科目」の内、英語で行われる科目

授業で使用する言語が英語の科目については、教養教育科目授業時間表（昼間用の「履修の手引き・授業時間表」）の備考欄に「英語で行われる科目」と記載しています。

この科目は英語力について受講要件がある場合がありますので、必ずシラバスを確認してください。

### （4）他学部が開講する専門教育科目の履修について

各学部が開講する専門教育科目のうち、「学部開講専門教育科目一覧表」（専門基礎科目・専門科目）に記載する授業科目は、全ての学部の学生を履修対象として開講しています。

この専門教育科目を開講学部以外の学生が履修し単位を修得した場合は、当該一覧表に記載のとおり教養教育科目の授業科目として取り扱われます。履修に当たっては、次の各事項に留意してください。

- (1) 開講学部、学期、曜日・時限および教養教育科目への対応についてよく確認の上、間違いのないようにしてください。（専門基礎科目・専門科目として履修する講義番号と教養教育科目として履修する講義番号が異なりますので、注意してください。）
- (2) 指定された一部の科目については、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、事前に履修希望登録を行い、履修希望者多数の場合には、抽選を実施し履修者を決定します。  
開講学部以外の学生で履修を希望する場合は、必ず登録してください。  
なお、履修希望登録期間や詳細な方法については、一般教育棟A棟1階の掲示板を確認してください。  
また、新入生の第1学期及び10月入学の新入生の第3学期については、履修希望登録の対象となる科目はありません。
- (3) 授業計画等を確認する場合は、シラバスを参照してください。
- (4) 他学部学生は、履修に際して授業担当教員に、他学部履修者である旨、申し出てください。

## 5. 受講上の注意

授業を受ける際に知っておかなければならないことを説明します。知らないばかりに授業を受けられなかったり、必要な連絡ができなかったり、学生生活上の必要な支援が得られなかったり、さまざまな不都合が生じることになります。受講上の基本的な注意については、特に確認しておきましょう。

### 5-1 教室

夜間主コースの授業は、主に文学部・法学部・経済学部講義棟を使用して開講します。

昼間開講の教養教育科目の授業は、主に一般教育棟を使用して開講されますが、学部や情報統括センターの教室を使用する場合がありますので注意してください。

### 5-2 授業に関する連絡

教養教育科目に関するいろいろな連絡は、次の方法で行われます。  
定期的に、必ず確認してください。

#### (1) 夜間主コース掲示板・教養教育掲示板

夜間主コースの授業に関する「休講」・「補講」・「お知らせ」等情報は、夜間主コースの掲示板に掲示します。

昼間開講の教養教育科目については、一般教育棟A棟1階掲示板に掲示します。

#### (2) WEB掲示板

教養教育掲示板を補完する意味で、WEB掲示板に情報を掲載します。WEB掲示板は学外パソコンや、スマートフォン、携帯電話からも閲覧できます。詳細は「学務系システム利用の手引き」で確認してください。

#### ■アクセス方法

岡山大学公式ホームページ (<https://www.okayama-u.ac.jp/>) の「在学生・保護者の方」のページにアクセスすると、WEB掲示板のバナーが表示されます。

#### WEB掲示板

<https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/>

#### QRコード



### 5-3 教室変更

授業開始後は、受講者数の増減に伴い、教室を変更することがあります。教室変更については、夜間主コース掲示板を必ず確認してください。

昼間開講の教養教育科目の教室変更については、一般教育棟A棟1階掲示板に掲示します。

### 5-4 休講・補講

授業担当教員が、出張または病気等の理由で、担当する授業を休講する場合及びそれに伴う補講を行う場合は、夜間主コース掲示板で通知しますので、毎日掲示等を見るようにしてください。

# 5. 受講上の注意

## 5-5 公欠・準公欠・その他の欠席

### (1) 公欠

以下の場合は、**公欠**として認められます。手続きは、所属学部の教務学生担当窓口で行ってください。

- ① 気象警報・交通機関の運休による欠席
- ② 親族が死亡したことによる欠席
- ③ 感染症に罹患したことによる欠席
- ④ 弾道ミサイルが落下したことによる欠席

【See→46頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

### (2) 準公欠

以下の場合は、**準公欠**として認められます。手続きは、所属学部の教務学生担当窓口で行ってください。

- ① 裁判員制度に基づき裁判所へ出頭する場合、その他証人、参考人等として裁判所その他官公署へ出頭することによる欠席
- ② 骨髄移植のために骨髄液等の提供を行う場合等の欠席
- ③ 災害ボランティア活動に伴う欠席  
(対象となる災害は公示しますので、掲示又はホームページにより確認してください。)

【See→46頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

### (3) その他の欠席

公欠や準公欠とならない事由（主に、以下の表に掲げるもの）により授業を欠席をする場合は、授業の欠席を届け出る際に、49ページに掲載している様式を使用することができます。（ただし、所属学部・研究科等により授業欠席の取扱い等が別途に定められている場合は、それに従ってください。）

この欠席届を提出する場合は、記入した後、必要に応じて関連書類を添付の上、**授業担当教員あてに直接提出してください。**

この欠席届の提出にかかわらず、成績評価に当たっての配慮を行うかどうかについては、各授業担当教員の判断に委ねられています。**この欠席届の提出により、授業担当教員による成績評価における配慮を確約するものではありません。**

なお、**定期試験を欠席する場合は、この欠席届を使用せず、39ページの「6-3 受験延期願（追試験）」に従って、手続きを行ってください。**

【欠席届を使用することができる主な授業欠席の事由】

本学の教育施設以外で実施する授業等	教育実習等	教育職員免許状又は保育士資格の取得のために必要な実習をいう。
	介護等の体験	教育職員免許状（小学校及び中学校免許）の取得のために必要な体験をいう。
	インターンシップ実習	本学の開講する授業で、単位認定を行う就業体験をいう。
	学外研修等	学部・研究科等において実施する学外研修及び学外施設見学等をいう。
集中講義		授業実施期間中における集中講義をいう。
病気又はけが		学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて（平成21年9月16日学長裁定）第4に規定する、学生が感染症に罹患した場合等の取扱いによらない病気又はけがをいう。
課外活動		岡山大学公認サークルの活動に伴う大会等への出場をいう。
就職活動		授業実施期間中における就職活動をいう。

【See →49頁「欠席届」様式】

【See →39頁「6-3 受験延期願（追試験）」】

## 5. 受講上の注意

### 5-6 レポートの提出

#### (1) レポートの作成

「授業科目名、担当教員名、学部、学科、学生番号、氏名」をレポートの表紙にわかりやすく記入してください。レポートが複数枚になる場合は、ホッチキスで留めて提出してください。

#### (2) レポート作成上の注意

レポートの中で他人のアイデアを引用する場合は、適切な引用や出典参照をしないと「剽窃（ひょうせつ）行為」とみなされます。「剽窃」とは、「他人のアイデアを自分のものとして使用する行為」で、以下のような具体例があります。

- ・書籍、論文、インターネット上の文章、データ、写真、絵、図、チャート等、書かれたものや、口頭で示された他人の意見や構想を、適切な引用や出典参照をしないで、写して（コピー&ペーストして）自分のものとして、レポート・論文・発表等で使用すること
- ・書籍、論文、インターネット上の文章、データ、写真、絵、図、チャート等、書かれたものや、口頭で示された他人の意見や構想を、適切な引用や出典参照をしないで、少し言い換えたり、まとめたりして、自分のものとして、レポート・論文・発表等で使用すること
- ・レポートや論文、宿題などの成果物を、他人に作成してもらい、自分のものとして使用すること

また、他人ではなく自分が書いたものであっても、ある授業で提出したレポートを他の授業で再度提出することは、学問的倫理に反するのでやめましょう。

#### (3) レポートの提出期限、提出場所

- ① 提出方法については、担当教員からの指示に従ってください。
- ② 指示された提出時間・期限を過ぎた場合、受理できませんので注意してください。
- ③ 提出場所が「一般教育棟」と指示された場合は、一般教育棟A棟2階学務部前の廊下にある「レポートボックス」に提出してください。設置時間は、平日8:30~17:00です。

##### レポート表紙

／
授業科目名
授業担当教員名
テーマ
学部・学科
学生番号
氏名



## 6. 試験及び成績の評価

### 6-1 受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。  
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。  
自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、試験において不正行為を行った、不正行為を行おうとした、または不正行為を幫助した者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

試験における不正行為は次のとおりである。ここで、試験時間中とは、解答の開始から答案の提出までをいう。

- 1) 代理（替玉）受験をしたり、させたりすること
- 2) 試験時間中に、使用が許可されていないノート及び参考書等並びに電子機器類その他試験問題解答の参考となり得る物品を参照すること又は使用すること
- 3) 試験時間中に、言語、動作又は電子機器類等により他人に教示すること又は教示を受けて解答に利用すること
- 4) 答案を交換すること
- 5) 試験時間中に、他の学生の答案をのぞき見すること
- 6) 試験時間中に、使用が許可されたノート及び参考書等並びに電子機器類を貸借すること
- 7) 監督者の注意若しくは指示に従わないこと
- 8) その他、試験の公正な実施を妨げる行為をすること

また、不正行為を行った場合、または不正行為を行おうとした場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修している全ての授業科目（学期をまたがって履修する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

### 6-2 不正行為

不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、**当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定されないだけでなく、学則第58条により厳重な懲戒処分を受けます。**



## 6. 試験及び成績の評価

### 6-3 受験延期願（追試験）

病気その他やむを得ない事故等により定期試験の受験延期を希望する場合は、「受験延期願」（所定様式）に、次の書類等を添付して、法学部・経済学部夜間主コース担当窓口へ提出しなければなりません。

- ① 病気の場合は、医師の診断書
- ② その他の場合は、その事故等を証明する証明書

上記願出者で、受験延期を認められた者は、追試験の受験資格を得ることができます。ただし、追試験の実施の有無は、授業担当教員の判断によります。

追試験は当初の試験日から2か月以内（後期末試験の場合はその学年末（3月31日）まで）に受験しなければなりません。

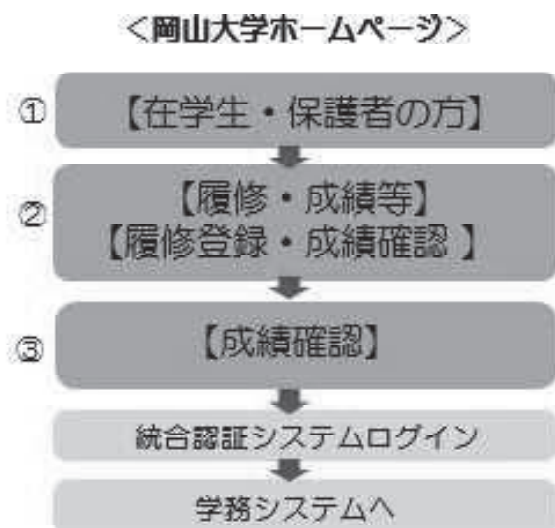
### 6-4 成績の通知

学生の皆さんは、学務システム（Web）により、成績を確認することができます。成績の公開日程は、学期末に掲示及びGmailでお知らせします。学外のパソコンからもアクセス可能です。

**【注意】** 成績を確認するために成績証明書を発行しないでください。  
成績証明書は単位を確認するためのものではありません！

## 確認方法

※岡大ID・パスワードはみなさんの重要な個人情報ですので他人に情報が漏れないよう取扱には十分注意してください。学外のパソコンからも確認できます。



また本学では、保護者の方との連携により、学生へのより適切な修学指導を行うことを目的として、皆さんの成績（通算の単位修得状況）を保護者の方へ通知しています。

## 6. 試験及び成績の評価

### 6-5 成績評価に関する質問・疑問の受付について

教養教育科目の成績評価に関する質問や疑問がある場合には、以下のように取り扱います。

- 1) 教養教育科目に関して、成績開示後、開示された成績に質問・疑問等がある場合は、当該授業担当教員に質問等を行うことができます。
- 2) 教員は学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付け、真摯に対応します。
- 3) 教員からの回答に納得できない場合は、「岡山大学教養教育科目における成績評価異議申立に関する要項」に基づき、異議を申し立てることができますので、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ（②番窓口）にその旨を申し出てください。
- 4) 上記に関わらず、成績評価に関する質問・疑問等がある場合には、一般教育棟A棟2階学務企画課教育支援グループ（②番窓口）にその旨を申し出てください。

# 7. 学びのサポート

## 7-1 教科書の購入方法

教養教育科目の各授業科目ごとのテキスト、教材、参考書および販売店等については、シラバスに記載してありますが、その他、各期（前期、後期）の始めに教科書の販売店等の一覧表を夜間主コース掲示板に掲示しますので、確認の上各取扱店にて購入してください。

## 7-2 教科書の活用方法

大学における教科書の利用は、単に授業時間内に利用されるものではありません。1つの授業で伝えるべき内容は大変たくさんあり、限られた授業時間内に伝えることのできる範囲は、氷山の一角にすぎません。

授業では理解できないことや、疑問点を解消するために予習することが、授業を受講するのと同様に大切なことです。自習用のテキストとしても大いに活用してください。

## 7-3 大学内で自主的に学習したいとき

### (1) 図書館を利用する

図書の貸出、閲覧をはじめ、図書館は皆さんが欲しいと思う情報を収集できる場です。



中央図書館▶

開館日・時間など図書館の詳細については、ホームページで確認してください。

●岡山大学附属図書館ホームページ <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>

### (2) WAKU<sup>2</sup>スクエア1・2, パソコン室を利用する

WAKU<sup>2</sup> スクエア1 一般教育棟A棟1F▼



利用時間 平日 8:00~20:00

パソコン室 一般教育棟A棟2F▼



利用時間 平日 8:30~20:00

WAKU<sup>2</sup> スクエア2の利用時間 平日・土曜日 8:00~21:00 大学会館1F

# 7. 学びのサポート

## 7-4 授業が分からない、授業について質問があるとき

### オフィス・アワーを活用する

オフィス・アワーとは、授業科目に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員が研究室に在室している時間帯のことです。授業担当教員のオフィス・アワーはシラバスで確認することができます。

## 7-5 外国語をもっと学習したいとき

授業以外で、外国語の学習を自主的に行いたい方のために、津島キャンパスには次のような語学習得の場が用意されています。

### (1) L-café 一般教育棟A棟別館1階 月～金曜日 10時00分～19時00分

L-caféでは、以下の語学習得の機会を無料で提供しています。岡山大学生であればだれでも利用可能です。

- 1) 英会話レッスン（每学期 週1回×5回コース）（登録制）
- 2) TOEIC の英語試験対策勉強会（登録制）
- 3) 留学生と一緒に参加できるイベント（フェイスブックやホームページで情報発信しています）
- 4) 英語練習問題集、試験対策本、英字新聞、原書、英字雑誌、DVD、BS二ヶ国語放送（CNNなど）
- 5) 留学や語学相談（予約制）

L-caféでは異文化に興味のある人や外国語を学習している人が集まり、情報交換や、語学習得をする場所を提供しています。留学生がたくさん集まって、日本語や日本文化について学ぶ場所でもあります。国際交流に興味がある方、外国語を習得したい方、身近にできる留学体験をぜひL-caféで一緒に始めましょう。

### L-café Shikata

岡山大学鹿田キャンパス医学資料棟（旧栄養学棟、附属図書館鹿田分館の北側）1階L-Commons

L-café Shikataでは留学生、外国人研究者向けの日本語レッスンや学生、職員向け英語レッスンを定期的に行っています。お問い合わせは津島キャンパスL-caféまでお願いします。

(L-caféホームページ)  
<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/lcafe/>

### (2) 初修外国語「カフェ」

初修外国語でも、ネイティブ留学生との語らいの場、検定試験対策などの質問コーナーのための「カフェ」を開設しています。開設時間と場所は以下のとおりです。いつでも気軽に参加してください。

中国語カフェ（中文茶房）

日時：毎週火曜日16時20分～19時

場所：一般教育棟A棟別館1階 L-café 内

その他、フェイスブックでも情報発信をしています。

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversityZhongwenChafang/>

## 7. 学びのサポート

フランス語カフェ（カフェ・フランセ）

日時：毎週木曜日，16時30分～18時30分

場所：一般教育棟A棟別館1階 L-café 内

ブログやフェイスブックでも情報発信をしています。

<https://www.facebook.com/OkayamaUniversiteCafeFrancais/>

<http://yasedo.wixsite.com/cafeFrancais/blog>

<http://yasedo.wixsite.com/cafeFrancais>

ドイツ語カフェ（シュタムティッシュ）

日時：毎週木曜日，16時20分～19時00分

場所：一般教育棟C棟4階 教員ラウンジ

韓国語カフェ（イヤギ）

日時：毎週月曜日，16時30分～18時頃

場所：一般教育棟C棟4階 教員ラウンジ

### (3) にほんごカフェ「Sakura」

岡山大学では、様々な言語や文化を持った人たちが学んでいます。にほんごカフェは、留学生・日本人学生が日本語を共通言語として交流する場です。岡山大学に所属する人ならだれでも参加できます。リラックスした雰囲気の中で、いろいろなことを話しながら交流を深めませんか？

日時：毎週月曜日&木曜日 16時20分～17時20分

場所：一般教育棟A棟別館1階 L-café 内

「にほんごカフェ」のフェイスブックでも、最新の情報が見られます。

<https://www.facebook.com/NihongoCafeSakura>

### (4) 語学演習室兼自習室を利用する

語学能力のスキルアップ支援施設として、語学演習室兼自習室を設置しています。

語学演習室兼自習室 一般教育棟A棟1F▼



利用時間 平日 8:00～20:00

## 7-6 授業評価アンケート

このアンケートは、授業担当教員が受講学生とともに、授業をより良いものに改善していくことを目的として実施しています。アンケートは、前期及び後期の学期末に実施されますので、ご協力をお願いします。

アンケートの集計結果については、岡山大学HPから閲覧することができます。